

諏訪湖の漁業復活への思い

五官 吉澤 忍



諏訪湖の今昔

地元の企業で働かせていただいた後、定年一年を残し退職。現在、漁業・養蜂・野菜作りを主業とし七年が過ぎ、自称「代表取締役三事業部長兼平社員」として、多くの人に支えられ何とか暮らしています。退職当時、次の生業を決める条件として、体力・気力が続く間は「年金に頼らなくても生活できる仕事」の二点と、現在持ち合わせている知識・技能を斟酌して「諏訪湖の漁師」を選び、あまり気張らずに取り組んでいます。

昭和三十年代、諏訪地方は新産業都市に指定され、企業への就職が人気となりました。一方、諏訪湖の漁業は衰退の一途をたどり、かつて、諏訪湖の漁獲高は、シジミ・うなぎ・エビ・わかさぎ・鯉・鮒等、年間約一〇〇〇トンの水揚げでしたが、現在は約三〇トンと、約三分の一になり、特に貝類は絶滅しています。美味しかったシジミやうなぎを食べたいなど淡水魚を恋い慕うファンは多く、その需要に応えることを目標に漁師となっただけに寂しい限りです。

漁獲量が激減した要因はいろいろと考えられますが、厳しい現実を突きつけられ「何とかせよ」という気が湧いてくるので

諏訪湖は宝の山

世界的な食料不足が懸念される中、マグロ・鯨などの捕獲規制が厳しくなり、内水面漁業（*河川・湖沼など）を利用して行う漁業の振興がより重要になってきました。

そんな中、諏訪湖は今も昔も「宝の山」です。本物の「金」が終末処理場で発見されました。しかし、それ以上の宝は、身近な諏訪湖に魚類がたくさん棲息していることです。それらの小さな命をいただくことに感謝して食せば、安心・安全・健康を得る「宝」となるでしょう。



投網を打つ

いま、官民協働で「湖底の無酸素」等の問題解決に当たっており、かつての諏訪湖の環境に戻れば、漁種・漁獲量の大幅な回復が図られるはずで、そうなると、地産・地消、食料の自給率向上等に寄与できるでしょう。漁師は厳しい仕事ですが、新鮮な魚介類を消費者にお届けし、喜ばれる姿を見ると、少しは地域のためになっていることを実感し「生き甲斐・楽しみ」がより広がるのです。

■諏訪湖博物館の6月の休館日は、6・13・20・27日です。

利用者さん・ご家族に寄り添って

樋口 香代子



下諏訪町社会福祉協議会で居宅介護支援事業所のケアマネジャーとして仕事につき、五年目を迎えました。私が介護の仕事に携わるようになったきっかけは、介護保険施設でパート清掃の仕事をするようになったことが始まりでした。

入所の方が生活している居室の清掃でしたので、利用者さんにかかわることが多くあり、前向きな姿勢で自分の道を見つけてようと思えました。

資格取得を目指して

施設内では認知症で表情を変えず歩き回っている方、家に帰

りたいと言って車いすから降りて這って施設内をさまよっている方とさまざまでした。どう接しているのか、なんと声をかけていいのか……。そんな時、ある介護士がまるで恋人を見るかのようなキラキラした瞳で「どうしたの？」と優しく対応していました。

彼女は短大で介護福祉士の資格を取り就職し、二十歳過ぎたばかりの介護福祉士でした。介護が必要となってもその人らしく穏やかに生活するには、どのように過ごしていただけるのかと、他のスタッフと日々工夫されて利用者さんと接していました。

そんな姿に感動し影響を受け、ヘルパーの資格を取得しました。

ケアマネジャーとして

現在はケアマネジャーとして、在宅で生活される要介護者の方に関わらせていただいています。介護が必要になった方やご家族は、不安や悩みを抱えている方が多く、様々な相談を受けることがあります。少しでも不安を取り除けるように、元気に過ごせるお手伝いができればと思っています。

脳梗塞により片麻痺となった方が、病院を退院するときに「車いすの生活になります。」と入院先の医療従事者に言われましたが、歩けるようになりたく強く望み、ご本人とご家族が協力してリハビリに励み、その願いをかなえました。「こうなりたい」「こういう生活がしたい」という気持ちに添い、サービスクラスを作り、目標が達成できたときの気持ちは格別です。

介護保険制度が始まって十年ですが、改定がたびたびあり介護保険も変化しています。日々勉強だと思っています。満足することなく、学ぶ心を忘れず、「元気で前向き」をモットーにご利用者・ご家族に寄り添ってこれからもがんばっていきます。

(諏訪市在住)



朝の打合せ



♪ この仕事に生きる ~ 自分らしさを求めて ~

♪ この仕事に生きる ~ 自分らしさを求めて ~

■文化センターホール・体育館の6月の休館日は、7・14・21・28日です。